

ぐるっと音楽紀行

旅するピアニスト

赤松林太郎

♪ 19

イタリア・
フラスカーティ

ヨーロッパ留学を終えたのは今から15年前。7月に完全帰国した。そしてイタリア・フラスカーティを訪ねたのはその年の12月。留学を終えた後の初めてのヨーロッパ旅行だったので、住んでいる時は違う記憶の引き出しに思い出が詰まっている。

ローマから30分も電車に揺られると、カステッリ・ロマーニと総称される山地に至る。鉄道沿いに水道橋が並行し、ローマから離れるに従い、標高を上げていく。古くから明媚な風光とワインの適産地であり、古代から格好の避暑地として多くの皇帝や貴族たちがヴィラ（別荘）やカステッロ（城）を築いてきた。フラスカーティはそうしたカステッリ・ロマーニの最北に位置する。

12月はトラモンターナと呼ばれる冷たい北風が吹き、天気が変わりやすい。青天に十字架を描いていた飛行機雲も、あつという間に灰色世界にかき消されてしまい、

若い芸術家支援 貴族の伝統



アルドブランディーニ荘=いずれも2007年、イタリア・フラスカーティ(赤松林太郎さん提供)

プラタナスが石畳に葉を落とす。天狗の団扇ほどあろうかという大きさである。ローマもフラスカーティも街路樹は落葉する。それまで松のイメージしかなかったが、冬のイタリアは初めてで、そのような紅葉に私はドラマチックなイタリアの歴史の栄枯盛衰を重ねて見た。

小さな町ということもあるのだが、フラスカーティの至るところで私のコンサートポスターを見かけた。公共施設や商店ばかりでなく、電話ボックスや郵便ポスト、公衆トイレに至るまで貼られている。コンサートのスポンサーはアルドブランディーニ家だった。フラ

スカーティのワイン醸造で名高いが、元々は中世のローマで強大な権力を有していた一族である。名画が並ぶドリア・パンフィーリ宮殿も、一時期はアルドブランディーニ家の所有であり、ローマで最も広い貴族の館だった。

は、長年にわたって醸成されたイタリアの伝統なのだろう。公演日は冷たい雨が体を芯から冷やし、軒を打つ雨音が絶えず演奏に割り込んだ。急場しのぎで買った手袋はほとんど役に立たず、真っ青な顔をした私を見て、パブロは「ホッカイロ」を差し出した。ドイツでもオランダでもホッカイロを出されたことはあったが、まさかイタリアで出会うとは！

イタリアを太陽の国だと信じきっていた私には良い教訓となった。演奏家は指が命。ささいなことが大事件になるから、毎日がドラマチックな旅になる。

◇第2月曜に掲載します。



旧市街のオステリア

あかまつ・りんたろう 1978年、大分県生まれ。2歳から神戸で育つ。兵庫高、神戸大発達科学部卒。パリ・エコール・ノルマル音楽院高等演奏家資格首席取得。2007年に帰国し、国内外で活動。大阪音楽大准教授、洗足学園音楽大客員教授。神戸市在住。

